

# 平成28年度 大分県学力定着状況調査結果（中学校：英語）

## 1 結果のポイント

全問題数：35問（知識25問、活用10問）

- ・偏差値（知識 51.4 活用 52.2）で、昨年度（知識 48.9 活用 48.9）から知識が 2.5 ポイント、活用が 3.3 ポイント上昇した。
- ・「読むこと」「書くこと」「聞くこと」のすべての領域において、目標値を上回った。
- ・今回の調査においては、リスニング（対話文の応答）、語形・語法の知識・理解に課題のあることが見て取れる。

## 2 課題が見られた問題と指導の改善事項（領域別）

### （1）「聞くこと」

対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題3問が目標値を大幅に下回っている。これは3年連続下回っており、対話文に関して「聞くこと」に関する外国語理解の能力に課題があることがわかる。

具体的には、Let's play tennis. の応答として、Sorry, I'm helping my father. を選ぶべきところを、Yes, I am. を選んでいる生徒が多かった。誘われたときの応答の仕方について定着が不十分だった。また、What と Where を使った疑問詞のある疑問文の答え方の理解が不十分だった。



- ◎授業の始めのウォーミングアップ活動でQ&A活動をして、疑問詞のある疑問文の応答を繰り返し練習させる。
- ◎日常的に、多様な表現を用いた会話活動をするなどインプット及びアウトプットする機会を積極的に取り入れる。
- ◎目文字情報なしで音声を聞かせて、適切な応答をさせる、内容に関する質問に答えさせるなど、目的を持って聞く活動を取り入れる。
- ◎設問に焦点をあて、メモを取りながら聞く練習をする。

### 領域別正答率

領域	正答率	目標値
	国東市	
聞くこと	72.0	71.0
読むこと	67.4	62.5
書くこと	60.4	57.3

## (2) 「読むこと」

対話の流れとグラフから、登場人物の適切な発言を判断する問題とメールの内容を踏まえて、返事を書く問題で目標値を少し下回っている。英文全体の意味を把握し、文脈や前後関係を押さえながら読むことに課題がある。英文の概要を把握すること、英文中から必要な情報を探し出すこと、まとまった量の英文の要点を理解することに課題がある。



- ◎学習者のレベルにあった文章をたくさん読む活動を行う。
- ◎授業の中で、手がかりとなる語句や表現をヒントとして与えたり、事前に内容を尋ねる質問をするなどして、書き手の伝えようとすることを正確に読み取るスキルを身につけさせていく。
- ◎読む目的（英文の概要を理解する、英文中から必要な情報を引き出すなど）を明確にし、それに沿って多様な英文を主体的に読む活動を行う。
- ◎教科書のUSE READの長文読解の際に、逐語的な読みから脱却し、英文を意味のかたまりごとに大枠でとらえて読み取らせる指導をしたり、内容の要約をする問題を取り入れたりする。

## (3) 「書くこと」

Can を使った依頼文や動詞を三人称単数形にする問題について目標値を下回った。基本的な語法の理解が不足しているなど語形・語法の定着状況に課題がある。単語では、「大きい」「話します」の二つを書く問題で目標値を大きく下回った。基本的な語彙の理解が不足していたり、単語を書く力が不十分である。また、対話の流れに合った英文を書く問題（過去形を使って時刻を尋ねる）で目標値を少し下回っている。



- ◎基本的な語彙を定着させるため、授業や家庭学習での語彙指導を見直す必要がある。（特に英語が苦手な生徒に対して）
- ◎会話文に限らず、文脈に沿った内容を自分の言葉で表現できるようになるためには、単に英文一文の意味を理解するのではなく、その文が使われる場面を意識しながら話の流れ全体を理解する必要がある。聞いたり、読んだりした内容をしっかり理解した上で、「書くこと」の活動につなげる技能統合的型言語活動に慣れ親しませる工夫が求められる。

問題内容別正答率

問題の内容	正答率		目標値
	国東市	大分県	
リスニング（内容理解）	83.8	82.7	79.2
リスニング（対話文の応答）	54.3	53.1	58.8
語形・語法の知識・理解	68.0	65.1	68.8
語彙の知識・理解	67.1	64.7	65.0
さまざまな英文の読み取り	73.1	69.3	63.8
長文の読み取り	60.9	55.1	55.0
単語の並べかえによる英作文	78.7	71.1	66.3
場面に応じて書く英作文	42.3	33.8	30.0
3文以上の英作文	65.0	55.7	53.3

3 指導の改善のポイント（全体を通して）

(1) 基礎的・基本的な事項を確実に定着させるための指導の工夫をする。

- 学習した語彙や表現を定着させるために、繰り返し使う機会を設けたり、定期的に振り返ったりするなどのスパイラル学習を行う。
- 教え込むのではなく、生徒の気づきを大切にする。
- 生徒の実態を把握し、個に応じた支援を充実する。
- 教科書の英文だけでなく、学習者のレベルに合った多様な英文や問題に触れさせる。

(2) 実生活に関連した課題などを通じて動機づけを行い、生徒の学びに向かう力を育成する。

生徒自身の体験や考えなどに照らして、「話すこと」「書くこと」に結びつけることが大切である。生徒の実生活に関連のある課題を取り入れ、その提示の仕方を工夫する。

(3) T⇔S, S⇔Sの英語使用を増やす。

教室を実際のコミュニケーションの場とし、次のようなことを大切にする。

- ① 生徒が自分の考えや気持ちを表現できるような機会を多く設定する。
- ② 生徒の英語による発言に対して、生徒の英語を繰り返したり、クラス全体の生徒とその発言の内容を共有するなどきちんと対応する。

(4) 付きたい力を明らかにして指導と評価を行う。

- 付きたい力を明確にした単元目標を設定し、生徒と目標を共有する。
- ねらいを達成するための指導内容や評価の方法を工夫する。
- 各授業・各単元終了後の振り返りを大事にし、生徒の知識・技能の習得状況や活用状況を確認して、必要に応じて補充指導・個別指導をする。

【参考】

観点別正答率

問題の内容	正答率	目標値
	国東市計	
外国語表現の能力	59.4	48.8
外国語理解の能力	69.8	65.8
言語や文化についての知識・理解	71.3	66.7

「英語好きですか?」・「英語の勉強がわかりますか?」

	平成26年			平成27年			平成27年		
	国東市	大分県	全国	国東市	大分県	全国	国東市	大分県	全国
英語の勉強が好き	53.0	53.7	55.9	54.1	56.9	55.9	55.0	57.8	55.9
英語の勉強がわかる	47.9	57.0	59.9	52.3	59.9	59.9	59.2	59.7	59.9